

令和3年度 飯塚市事務事業評価シート

令和 4 年 5 月 20 日 作成

事務事業名	旧伊藤伝右衛門邸運営事業	外部評価の状況	事務事業No.	452 - 1
		なし		

1. 基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
経済部	商工観光課	観光係	主任	伊藤 拓也	課長	小川 敬一
施策体系	総合計画	政策	4	地域経済		
		施策	5	観光の振興		
		基本事業	2	観光まちづくりの実践		
	その他の計画	個別計画	第2次飯塚市観光振興基本計画			
根拠法令・条例・要綱等	なし					
事業開始年度	平成18年度	事業終了年度	継続	事務事業類型	ソフト事業	
実施手法	一部委託	補助金等の支給	なし	実施計画期間	なし	

2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）

概要	旧伊藤伝右衛門邸への来館者を増加させるために、イベント実施や環境整備を行う。					
対象	働きかける相手・もの	市内外の観光客				
手段	方法・働きかけ（活動指標）	①旧伊藤邸を会場とする各種イベントの実施。 ②トイレリースなどを行い、来館しやすい環境を作る。				
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	旧伊藤伝右衛門邸に来館していただく。				

3. 活動指標（決算成果説明書と連動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
イベント実施件数	件	旧伊藤伝右衛門邸におけるイベントの件数	2	4	4
イベント実施の延べ日数	日	旧伊藤伝右衛門邸におけるイベントの、延べ日数	48	127	127

4. 成果指標（決算成果説明書と連動）

指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
イベント時の一日あたりの平均来館者数	人	200	250	200	200
説明	方向性	達成目標年度	実績	84	108
	増加	毎年度	達成率	33.60%	54.00%
指標	単位 <th>達成目標値</th> <th>前年度実績</th> <th>本年度実績</th> <th>次年度見込</th>	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
観光バス年間台数	台	100	500	100	100
説明	方向性	達成目標年度	実績	32	43
	増加	毎年度	達成率	6.40%	43.00%
指標	単位 <th>達成目標値</th> <th>前年度実績</th> <th>本年度実績</th> <th>次年度見込</th>	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
イベント開催による来館者数の増加割合	倍	3	3	3	3
説明	方向性	達成目標年度	実績	1.41	2.61
	増加	毎年度	達成率	47.00%	87.00%

5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）

予算科目・事業	会計	1 一般会計	款	7 商工費	項	1 商工費	目	4 観光費	他 0 事業		
	大	2 観光振興事業費	中	2 旧伊藤伝右衛門邸運営費							
投入人員 (当該事務事業に対して 1年間に投入した人員)	(R2以降)	前年度実績実績(千円)		本年度実績(千円)		増減理由(10%以上の場合)		次年度予算(千円)			
	正職員	0.55	人	4,334	0.48	人	3,935	0.50	人	4,098	
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	会計年度	1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0
		1級パート	0.10	人	172	0.20	人	401	0.20	人	401
		2級パート	0.50	人	1,273	0.50	人	1,317	0.50	人	1,317
	人件費計(A)		5,779		5,653				5,816		
事業費	直接事業費(B)	1,628		2,447				2,894			
	総事業費(A+B)	7,407		8,100				8,710			
直接事業費のうちの 主な歳出内訳	委託料	407		1,076				1,658			
	使用料	555		632				555			
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)	0		0				0			
	国・県支出金	0		0				0			
	市債	0		0				0			
	一般財源	7,407		8,100				8,710			
その他()											

6. 事務事業の事後評価★

評価視点	評価項目	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価 (上位施策/ 成果)	市の関与の妥当性	妥当	本市の主要観光施設であり、行政や観光協会等の関係団体が連携して実施する必要がある。
	目的の妥当性	妥当	本市の主要観光施設であり、来館者の増加及び市内の観光推進を図るため、実施する必要がある。
	対象（受益者）の妥当性	妥当	市内外の観光客を対象とした事業であり、受益は偏っていない。
効率性 評価 (活動量/ コスト)	コスト削減・コスト効率化	余地なし	イベント内容や施設環境の整備について、適宜スクラップアンドビルドを推進している。
	負担割合の適正化	適正	入館料は文化課が徴収しており、イベント開催等に伴う費用は市費以外で負担できないため、負担割合は適正である。
	手段の最適性	最適	類似イベントや関連事業はあるが、複合的に事業を実施することにより相乗効果が期待でき、観光客の回遊性向上が期待できる。
有効性 評価 (成果/ 活動量)	目標達成度	未達成	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、来館者数が減少し目標が達成できなかった。
	上位施策への貢献度	貢献できた	来館者減少はしているが、PR活動等において観光振興に貢献できている。
	事業継続の有効性	ある	旧伊藤伝右衛門邸は本市の主要観光施設であり、観光入込客数を増加させるために、次年度以降も事業を実施する必要がある。

7. 前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに実施できる改善策	新聞や雑誌、TV等を活用した効果的なPRの実施。
一次評価	②コストは現状維持し、成果を拡充	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策	旧伊藤伝右衛門邸を活用した効果的なイベントの開催。 外国人観光客向けのPRの強化、受入環境整備。

前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度実施できたこと、などを記入

いづか雛のまつりの時期に、テレビ局7社、ラジオ局2社から取材を受けPR活動を行った。また、イベント開催時には記者レクを行い積極的なPR活動を行った。特にTBSの「THE TIME」は全国放送であったため、全国の視聴者に伊藤邸を紹介することができた。その他、雑誌等の取材についても積極的に受け、広くPRを行った。

8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★

【成果】	新聞や雑誌、TV等を活用した効果的なPRを行ったことにより、イベント時の来館者数は、前年度と比較して増加した。
【課題】	旧伊藤伝右衛門邸の来館者数が年々減少していることから、効果的なPR活動や新規イベントの検討が必要である。また、感染拡大終息後には外国人観光客を取り込むためにウィズコロナ等を念頭に置いたPR及び受入環境整備の検討が必要である。

9. 今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	拡充				評価区分	事務事業の方向性
	現状維持	④	②	①		
縮小	③	⑤		二次評価	②コストは現状維持し、成果を拡充	
休・廃止	⑥	⑦				
		休・廃止	縮小	現状維持	拡充	
コスト投入の方向性						

次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★

コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	新聞や雑誌、TV等を活用した効果的なPRの実施。 来館者に対し、季節のイベント（雛、端午、秋の企画展）や3Dパノラマビューの紹介を行い、再度来館してもらえるようにPRする。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	旧伊藤伝右衛門邸を活用した効果的なイベントの開催。 ウィズコロナ、アフターコロナにおける国内外の観光客向けのPRの強化、受入環境整備。

評価変更理由	一次評価のとおりとする。 現状以外の活動も検討されたい。
--------	---------------------------------